

私は7月6日から7月27日まで約3週間、派遣生としてコロラド州、ニューメキシコ州に滞在してきました。現地での生活は当然日本の生活とは違いましたが、ホストファミリーやキャンプのスタッフの皆さんのおかげで、心身ともに健康で、充実した時間を過ごすことができました。

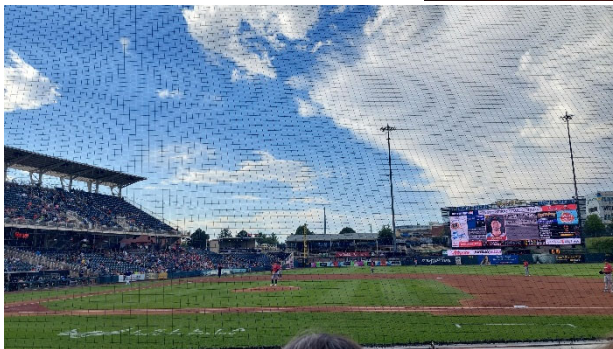
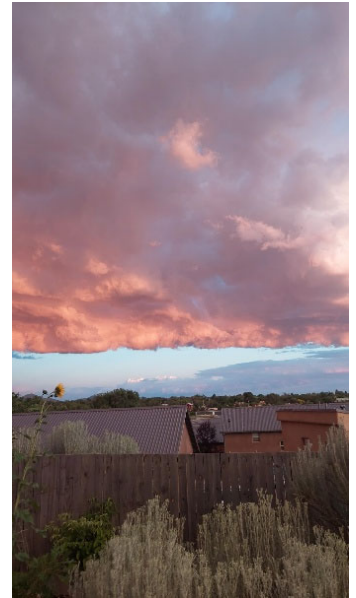
私がこのYCE 夏期コロラド派遣に参加しようと決めた理由は主に2つあります。1つ目は、高校生のうちに海外に行きたいと思っていたからです。海外に行っているいろいろな国の人と関わることで、また、自分の視野を広げてさらにいろいろな分野に挑戦する勇気を持てるようになりたいとも思っていました。2つ目は、今自分が持っている英語の能力を試したいと思ったからです。実際に英語を使って生活をするということを経験しておくべきだとも思っていました。このような理由で私は参加を決めました。

さて、ここからは私が派遣中に体験したことを書こうと思います。

まず初めは、ホームステイ先のニューメキシコ州・サンタフェに向かうための移動のことについて。私は成田空港からデンバー空港へ、そこからアルバカーキ空港へと約12時間強のフライトを経て到着しました。デンバー空港では1人での乗り継ぎとなり、とても心細かったです。ですが、空港のスタッフの方々に簡単な英語で行き先や航空会社を伝えることで、なんとか搭乗口までたどり着くことができました。この体験は大きな自信となりました。

次に、ホームステイのことについて。ホームステイ先のサンタフェは日本よりも気温が高く、とても乾燥していました。アルバカーキ空港でホストファミリーのMarsさんと合流し、空港の外に出た瞬間、汗が噴き出しました。毎日日差しが強く、雷雨になっても三十分程度で空に虹が浮かぶような天候でした。逆に、日本に帰ってきたときは、日本の湿気に驚きました。サンタフェは観光地で、商店街のようなところに出ていくと観光客がたくさん居ました。山のほうで生活している民族の方々が、路上で手作りのターコイズとシルバーのアクセサリーを売っていたり、アクセサリーショップでなくても、そのようなアクセサリーが売られていて、それはこの名物なのだなということが感じられました。また、サンタフェには美術館、博物館がたくさんあり、Marsさんも「ここには至る所に美術館があるよ」と言っていました。特に伝統工芸品が展示されている博物館が興味深かったです。日本の陶芸とは違う、特徴のある柄の陶芸作品がたくさんあり、一括りに壺といっても、用途によって様々な形があり、見るのが面白かったです。Marsさんとは、夜ご飯を食べたあとの時間に、アイスを食べながら、350ピースもあるパズルをしたり、ドミノをしたりしました。それは、「家族で過ごす時間」らしい時間で、楽しかったです。私と同じようにサンタフェでホームステイしている人と、交流の機会がありました。その人のホストファミリーと一緒に活動する日もありました。キャンプ前に何人かと交流すること

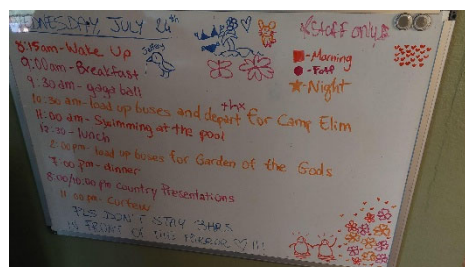
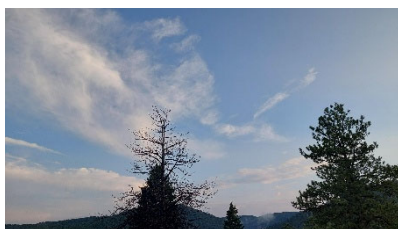
ができて、キャンプ時は心強かったです。モンゴル、イタリアから来た女の子とは、お泊まり会をして、互いの国の学校について話したり、音楽について話したりしました。そのうちのモンゴルから来た一人は偶然にも、去年の夏に山形に1週間留学に来ていて、日本のことについても話が弾みました。日本語を勉強していると聞いたので、ひらがなを教えたり、その子の名前を当て字で漢字にしたりもしました。それとともに、モンゴルで使う字や特有の発音についてなどを教えてもらいました。多文化交流とはこの事なのかと、その時はっきりと実感しました。



最後に、コロラドでのキャンプについて。キャンプには8カ国もの国から来た学生が集まり、1週間弱を共に過ごしました。コロラドの自然に触れることのできる様々なアクティビティを通して、たくさんの仲間と仲を深めました。特に、湖でのパドルボート体験は仲を深めるきっかけになったと思います。パドルボートは1人、または2人でサーフボードのようなものになり、パドル1本を使って漕いで楽しむといったものです。パドルが1本しかなく、コントロールが難しいため、何度もお互いのパドルボートにぶつかり合いました。ぶつかってしまった時に、「私のボートを押してくれない?」や「押してくれてありがとう」、「あぶない!」などといった会話を行うため、積極的にコミュニケーションをすることができました。また、「日本語で『Thank you』は

なんて言うの?」と聞かれ、「『ありがとう』だよ」と答えると気さくに「ありがとう」と返してくれて、嬉しかったという事もありました。また、仲良くなったブラジルから来た女の子からミサンガの編み方を教えてもらったりもしました。とある夜、シャワーを浴びている時、バスルームを出入りする人が開けるドアと共に、大音量で何かが聞こえてきました。シャワーを終え、バスルームにいた人に何が起きているのか聞くと「玄関で踊ってるよ」と、まさかの返事が返ってきました。気になって見に行ってみると、大多数の女子たちが、スマホのライトを照らしながら、音楽に乗って踊っているではありませんか。「あなたも行きなよ!」と参加を勧められたものの、今いる場所がステージになったような彼女らの物凄い熱狂ぶりについて行くことが出来ず、私は窓から眺めていることにしました。流れている曲を知っていようがなかろうが、ノリノリになってみんなで踊るということが、日本で使われることが僅かしかない、心を通わせるツールなのだろうと思いました。キャンプ最終日、私たち日本人とブラジルから来た派遣生2人は、帰りの飛行機の時間に合わせるために、他の人たちよりも早くキャンプを出て、デンバー空港に向かいました。帰りの飛行機はデンバー空港からの出発でした。アメリカに来るときもその空港を経由したので、ある程度知ってはいたのですが、帰る時には3人を案内出来るようになっていて、自分の成長を感じました。

この夏季コロラド派遣で、自分の自信になるようなたくさんの多文化交流をして、挑戦することの大切さを知りました。また、この地球の一員として、他人をよく知ることが人と人とを繋げる架け橋となる、ということを学びました。



このような交流をする機会をつくってください、後押しして下さったライオンズクラブの方々、ホストファミリー、そして家族に感謝します。